2016年7月29日付　九建日報

熊本地震

遮熱性舗装を無償施工

三井住建道路・全国道栄会ら

仮設住宅の暮らし快適に

熊本地震において被災された方々のために建設された仮設住宅のアスファルト舗装部分に、環境舗装技術である遮熱性舗装（技術名・サンクールR）の施工を無償で提供を始めた。

対象とした仮設住宅は、同社が営業所・合材工場を有し、拠点とする宇城市と宇土市の5団地計2085㎡。内訳は、宇城市当尾仮設団地（710㎡）、宇城市御領仮設団地（120㎡）、宇城市南出村仮設団地（470㎡）、宇土市高柳仮設団地（515㎡）、宇土市境目仮設団地（270㎡）。

遮熱性舗装は、ヒートアイランド現象の対策として開発された技術で、太陽光のうち赤外線を反射して日中の路面温度上昇を抑制し（通常のアスファルト舗装と比較し、夏の路面温度を10℃以上低減、さらに蓄熱が減ることによる夜間の気温低下の促進が図られるため、熱放射が減少して涼しく感じる効果がある。

この遮熱性舗装は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのマラソンコースにおいて採用が計画されるなど評価も高い。

同社は、熊本地震直後からNEXCO等の要請を受け、施工チームを投入し、復旧工事に従事している。

西和昭執行役員九州支店長は技術提供の経緯を「我が社の社員も被災し、車中泊をした者もいる。会社として何ができないかと考えていた。本社のゴーサインとともに、全国道栄会と日進化成様も快諾してくださり、実現した。震災によって生活環境が激変し、猛暑の中も仮設住宅に居住することを余儀なくされている方々の暮らしが、少しでも快適になり、心身の負担軽減になれば」と語った。

義援金を贈り、自治体に活用してもらうことも、もちろん重要だが、自社の技術を提供する同社の姿勢は、本来の建設業のあるべき姿の好例だ。その意思決定の素早さと行動力は、九州支店が目指す『地域に寄り添った企業』を具体的に示したものだ。

（写真は宇城市当尾地区での施工のようす）

三井住建道路㈱（松井隆幸社長）と同社協力会社で構成する全国道栄会は、日進化成㈱と共同で26日より、平成28年（2016年）

2016年8月9日付　建設工業新聞

熊本地震

仮設住宅団地の生活環境向上に

三井住建道路ら

遮熱性舗装提供

三井住建道路と協力業者で構成する全国道栄会は日進化成と共同で、熊本地震の被災者のために建設された熊本県内の仮設住宅団地のアスファルト舗装部分に、遮熱性舗装「サンクールR」を提供した＝写真。

対象となる仮設団地は、宇城市の当尾仮設団地（710平方㍍）、御領仮設団地（120平方㍍）、南出村仮設団地（470平方㍍）、宇土市の高柳仮設団地（515平方㍍）、境目仮設団地（270平方㍍）の5団地計2085平方㍍。

サンクールRは環境舗装技術としてヒートアイランド対策のために開発。太陽光のうち赤外線を反射するため、日中の路面温度上昇を通常のアスファルト舗装と比較して10度以上抑制することができる。2020年東京五輪のマラソンコースにも採用が計画されている。

三井住建道路の松井隆幸社長は「震災によって生活環境が激変し、猛暑の中で仮設住宅に住むことを余儀なくされている方々の暮らしが少しでも快適になり、心身の負担低減につながってほしい」と話している。

2016年8月9日付　建設通信新聞

熊本地震

三井住建道路

仮設に遮熱性舗装

被災者の住宅環境向上

三井住建道路と同社全国道栄会は、日進化成とともに熊本地震の被災者のために建設された仮設住宅の生活環境を向上させるため、アスファルト舗装部分に遮熱性舗装（技術名＝サンクールR）の施工を提供した。

施工前（写真上）と施工後

遮熱性舗装は、太陽光の赤外線を反射して日中の路面温度上昇を抑制する。通常のアスファルト舗装に比べ、夏の路面温度を10度以上低減できる。また、蓄熱が減ることで夜間の気温低下も促す。施工したのは熊本県宇城市の当尾、御領、南出村、宇土市の高柳、境目の5仮設団地で、施工面積は合計2085平方㍍となる。

同社らは義援金などの金銭的なものではなく、技術的な支援ができないか検討し、猛暑の中で仮設住宅に居住する被災者の暮らしが少しでも快適になり、心身の負担軽減につながるようにとの思いから提供した。